



# イラスト「学習の前に 30年前と今の社会を比較してみよう」の活用例

—「言語活動」を充実させるために—

公立中学校教諭

## 1 はじめに

生徒たちは社会科学習において1年生、2年生で歴史的分野や地理的分野を学んでいる。歴史や地理の学習というとイメージがわきやすいが、公民的分野はイメージがわからず、苦手意識をもちがちである。そのときに『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）を開いて生徒たちの目にまずとびこんでくるのが、このイラストのページである。生徒たちはこまごまとした絵を見たり、違いを見つけるのが好きである。楽しみながら自然と公民的分野の学習に入っていけるだろう。

中学校学習指導要領解説社会編の公民的分野「(1) 私たちと現代社会」の中項目「ア 私たちが生きる現代社会と文化」のねらいとして「現代日本の社会にはどのような特色が見られるか、どのような伝統や文化の影響を受けているのかを理解させ、これから始める公民的分野の学習に対して生徒の関心を高めることを主なねらいとしている」と書かれている。

教科書の第1部ではイラストの次のページから「持続可能な社会」、「少子高齢化」、「情報化」、「グローバル化」へと学習が進んでいく。このとびらのイラストにはこれから学習する要素がしっかりと入っており、自然と学習に入っていくことができる。

## 2 単元の構成について

「学習の前に」の第1時でいろいろなキーワードを出し、そこから第2時の「持続可能な社会」、第3時の「少子高齢化」など後半の学習につながるように単元の構成を行った。

表1

|     |  |
|-----|--|
| 第1時 | 「学習の前に 30年前と今の社会を比較してみよう」<br>イラストを比較し、変化を見つけ、その理由を生徒たちが考え合う（これまでの学習の知識で十分）。次時への橋わたしとなるキーワードを提示し合う。                 |
| 第2時 | 「私たちの現代社会をみてみよう」<br>「持続可能な社会」をキーワードに戦後から現代への変化とそれともなう課題を生徒たちが出し合う。また、話し合いながら、課題に対する自分の考えをまとめる。                     |
| 第3時 | 「少子高齢化が進む現代」<br>「少子高齢化」をキーワードに「戦後どのように人口が変化したか、このあとどのように変化していくと考えるか。」をグラフから読み取る。そして、話し合いながら自分の考える少子化対策や高齢化対策をまとめる。 |
| 第4時 | 「情報化が進む現代」<br>「情報化」をキーワードに戦前から現代への変化から情報社会の良い点と問題点、人々に求められる意識を話し合いながらまとめる。   |
| 第5時 | 「グローバル化が進む現代」<br>「グローバル化」をキーワードに経済分野や環境分野での変化を資料からとらえ、話し合いながら国際社会がかかえる問題に対する考えをまとめる。                               |

以上の第1章の各時間でまとめた自分の考えはノートやワークシートに記入させておく。このあとの学習の「基本的人権」、「経済」で今までの自分の考えに追加の情報が入ったり、変化したりする。そのとき、自分の考えの変化に気づくことが学習することの意義を感じる大切な場面となる。また、これは公民的分野の最後に位置づけられているレポート作成にも役だつと考えられる。

### 3

### 言語活動の充実のために

第1章全体をとおして、学習のなかに言語活動を取り入れやすくなっている。そこで、ぜひ、ここで言語活動の充実をはかりたい。

今回、「学習の前に」のイラストを中心どのような言語活動ができるかを考えてみた。イラストでは30年前と現在を比較するといろいろな変化があり、わかることはとても多い。

違いを見つけるとき、班活動などで意見を出し合うのは一つの方法である。このとき、付箋などを用意し、書かせながら、四つ切り画用紙に貼っていかせる。言語活動は話すことだけでなく、書くことも言語活動の一つといえる。書かせるときはなぜ、そうなったかも書かせると深い言語活動となる。

すでに生徒は地理や歴史で少子高齢化、グローバル化などを学習している。教科書のイラストを使い、変化を探ることで今まで学習したことを定着させる時間ともなる。

例えば、イラスト(図2)の二度見北小学校は30年前と比べて子どもの数が明らかに減少している。ここには少子化の影響がみられる。また、教室の一部がシニアクラブに貸し出されている。これも少子化によりあき教室があることや高齢化により行政などが地域の

方が集まるような空間を設けていることがわかる。

#### (1) 言語活動を重視した学習形態の例

次に学習形態について述べたい。いきなりグループ学習をしてもいつも意見を言う者だけが発言し、終わってしまう可能性がある。みんなが参加する学習のためにはまず、グループにする前にノートやワークシートなどを利用して、一人ひとりが変化を見つけ、その理由を書き出し、意見をもった状態で次に班の形に編成する。

#### その① となりどうしの2人組で

##### まとめる方法

となりどうしで気楽に意見を出させる。グループ学習に慣れていない段階では右側の人から左側の人に意見を伝えようなどやり方を示し、また時間を教師が制限してもよい。この言語活動を重ねていくとやがて教師が指示しなくとも自然と話し合うようになる。2人で出し合った意見を四つ切り画用紙に付箋で意見を貼っていくと自分たちの意見の全貌がつかみやすい。その後、学級全体の場面で発表させ、黒板にまとめていくと良い。

#### その② 4人班でまとめる方法

4人班の机の中央に四つ切り画用紙を用意し、付箋で違いと変化を貼っていく。話し合いが進まない場合は4人班の右前に座っている人から時計まわりに30秒ごとなど教師が指示を出しても良い。こうしたグループ学習も生徒たちが慣れてくるとやがて教師が指示を出さなくとも話し合いをするようになる。

#### (2) 予想される生徒の反応と生徒への発問について

今、学習は生徒主体といわれている。そこで生徒主体となる教師の発問の仕方について述べたい。このイラストは完成度が高いので、

表2

|            | 学習内容   | 教師の支援   |
|------------|--|---|
| 導入<br>10分  | <b>1 学習課題を提示する</b><br>「学習の前に 30年前と今の社会を比較してみよう」のイラストを1人でながめ、違うことを付箋に書き出す。  | はじめに例として全体の場でイラストを見ての生徒の言葉を取りあげ、変化と理由をおさえることでこれからすることの手順を確認させる。   |
| 展開<br>20分  | <b>2 班活動で意見を出す</b><br>4人班で付箋をもち寄り、四つ切り画用紙に貼り出す。  | このとき、なぜ、そうなったかの理由を書かせる。   |
| まとめ<br>20分 | <b>3 班ごとに発表する</b><br>変化が起こった理由に対して、わからない場合は質問し合う。<br><b>4 次時の予告をする</b><br>今日の学習から変化をとらえるだけでなく、未来に向けてどのような行動をとれるか考えることの大切さを感じる。 | 机間巡視し、教師が一つ例をあげ、やり方を説明する。<br>生徒の発表が少ない場合は教師が「なぜ？」と発言し、単に単語の発言で終わらないようにその理由まで発表させたり、新聞などを活用し、現在問題となっていることを生徒に聞いたりする。 |

言語活動充実のためにも教師は極力、話さない。例えば、だまって教科書のこのイラストのページを開けさせる。何も言わなくとも生徒たちは自然とながめるはずである。生徒が口々に「〇〇が違う」などと言ったら、そこから教師が生徒の発言を取りあげて「なぜ、変化したの」と聞く。するとそれまでの思考に、より深まりがみられるはずである。こう

して生徒はイラストを見比べるやり方がわかるようになる。次に「あとで話し合いをするので、ワークシートに自分が見つけた変化をまとめよう」と指示を出す。ここからは(1)言語活動を重視した学習形態の例で述べたようにグループ活動を進める。教師は机間巡視をし、話し合いが停滞していたり、やり方がわからないグループにアドバイスをする。も



図1 『社会科 中学生の公民』p.2 学習の前に 30年前のまち



図2 『社会科 中学生の公民』p.3 学習の前に 現在のまち

もちろん、素晴らしい変化の理由が出ているグループは簡単にメモをし、あとの発表で話してもらおう。

グループ学習が終わり、全体では班ごとに発表してもらおう。発表する活動を重ねると声がいみんなに届きやすいようにやがて配慮できるようになる。教師は「どうして」、「なぜですか」をやさしい口調でつねに問いかけてみたい。思わぬ生徒の考えにふれたときは大きさにほめてあげたい。

このイラストを利用し、学習の入り口とすることにより、楽しく生徒に自信をつけさせながら公民的分野の学習に進むことができるようになる。

### (3) イラストから変化を見つけ、

#### 次時につなぐ例

生徒が二つのイラストを比べると絵の違いから変化は簡単に見つけ出せる。そこで、それらの発見をどのようにして次時につなげるかを二度見北小学校、二度見中学校のイラスト(図1, 2)を例としてまとめた。

#### ① 「二度見北小学校、二度見中学校」のイラストからわかること

・生徒数が減少し、それにもない教室が貸し出されている  
→観点「少子高齢化」

・屋上に太陽光パネルがある  
・校舎に緑のカーテンをつくっている  
→観点「環境」

#### ② 次時につなげる教師の発問の例

##### ・「少子高齢化」の観点が出た場合

「子どもたちが減ることにより、どんな社会問題が考えられるだろう」

「出生率を上げるためにはどのような政策が考えられるかな」

##### ・「環境」の観点が出た場合

「環境を守るために国はどんな役目を果たすべきだろうか」

#### ③ 次時へのつなげ方

左記の②に次時へつなげるための発問を例示した。ただし、ここでは生徒へのなげかけ程度でよい。学習が進むと少子高齢化を考える場面があり、表1で紹介しているように学習課題を設定し、生徒たちが話し合う場面があるからだ。ちなみに私が授業で「少子高齢化対策」について取り扱ってみると、生徒にとっては考えなければならない身近な問題(国の財政面や地方の今後など)であり、興味をもって取り組んでいた。子どもが増えたら良いという世の中の理想と生徒個人の夢や現実のギャップからなかなか良いアイデアが浮かばず苦勞していた。このように生徒たちが簡単に答えを見つけられず、なやむということがとても大切であり、このことが公民的資質の基礎の部分育てることにつながると私は考えている。

## 4 まとめ

今まで述べてきたが、生徒には公民的分野が何を取り扱うのかがわからず不安が多い。そこで、生徒にとって見やすく興味をもちやすいイラストを利用してゲーム形式で変化を探し、理由を考えることはとても意義がある。また、言語活動の充実をはかりやすいのも公民的分野である。その手はじめとして生徒が授業の主体となるような活動を考えていきたい。やがて、これが日本国憲法、政治、経済の学習で現在の問題に取り組むときに生徒が活発に意見を言いたくなるきっかけとなると考える。